

令和6年度の方向

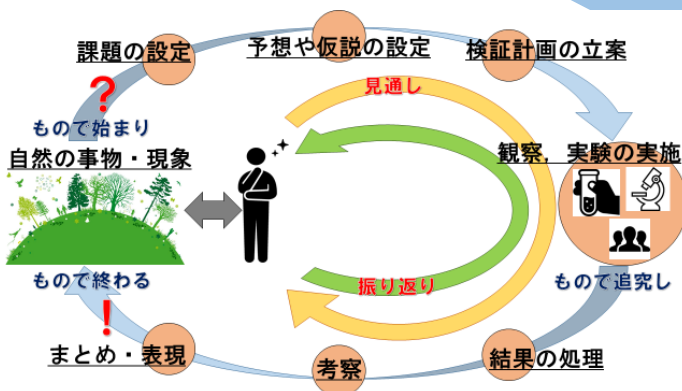
1. 令和5年度の実践を振り返って

令和4～6年度 岐阜県中学校理科研究部会 研究主題

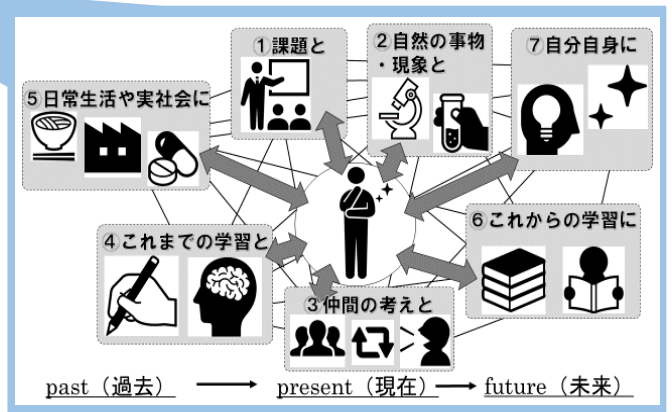
「理科の勉強が好き・楽しい」と実感できる理科指導
～ “科学的な探究の過程” と “つなぐ指導” を通して～

主題の「理科の授業が好き」「理科は楽しい」と実感する生徒とは、理科の授業を通して、自然を科学することや疑問を追究し、解決することなど、理科の魅力や科学の面白さを実感する生徒のことである。また、副主題は下記に示すイメージを共有して実践を進めている。

“科学的な探究の過程”

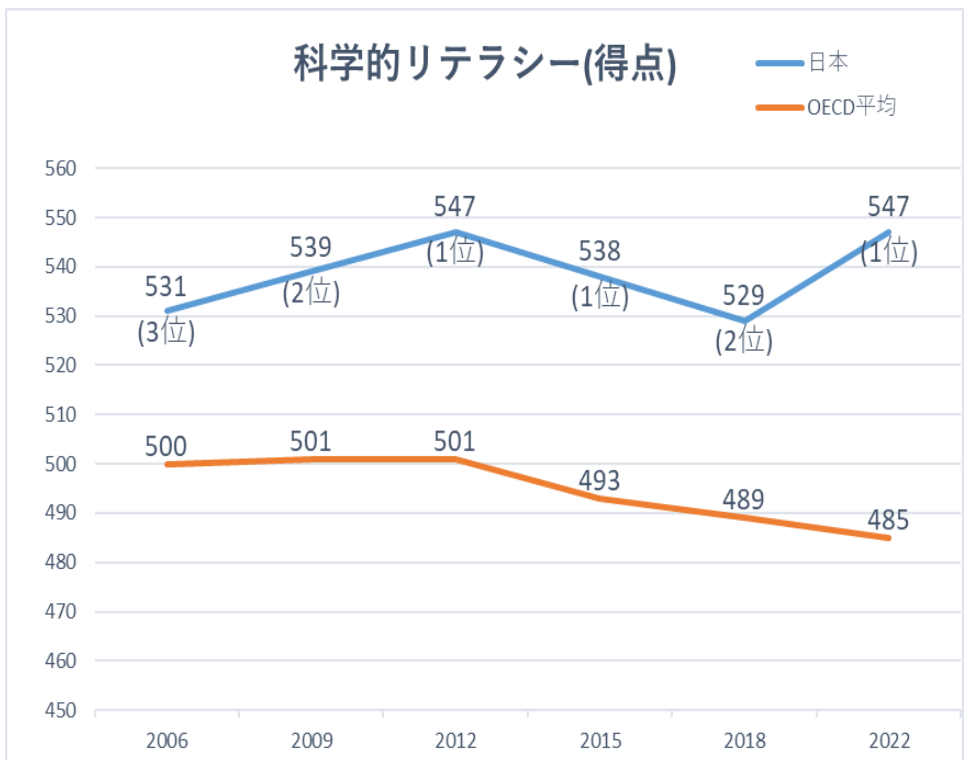


“つなぐ指導”



右図はPISA調査の科学的リテラシーの結果である。2022年の結果を見ると日本は前回調査より平均得点が上昇（統計的にも有意に上昇）していることが分かった。文部科学省・国立教育政策研究所の分析では、学校現場において現行の学習指導要領を踏まえた授業改善が進んだこと、学校におけるICT環境の整備が進み、生徒が学校でのICT機器の使用に慣れたことなどが結果に影響していることの2点が理由として挙げられた。

科学的リテラシー(得点)



上記のような結果及び分析から、今後も日常生活や社会との関連を重視する活動や自然の事物・現象を科学的に探究する活動を充実させることが、生徒の資質・能力の育成につながると考えられる。

2. 令和5年度の成果と課題

<成果（○）と課題（・）>

- 「科学的な探究の過程」を意識した授業が行われている。特に、実物(岩石資料や生物など)を導入で提示することで「課題の発見」を重視する実践が多く見られた。
- 「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の三つの資質・能力がバランスよく育成されている。
- ・ICTの活用や振り返りの充実が図られている中で、学びをより深めるための教材・教具の工夫については力を入れて取り組んでいく必要がある。
- ・生徒が主体となって科学的な探究の過程を進められるよう継続的な指導が必要である。

3. 令和6年度の重点について

研究主題を実現するために、令和6年度の指導の重点を次のように位置付ける。

<令和6年度の重点>

1. 「科学的な探究の過程」を、授業で一層充実させていくこと
 - 特に、1年生は問題を見いだす、2年生は解決方法を立案する、3年生は探究の過程を振り返る
 - 生徒自身が主体的に探究の過程全体を遂行できるように継続的な指導を行う
2. 「つなぐ指導」を、科学的な探究の中で意識的に行うこと
 - 特に、つなぐ対象の内、⑤日常生活や実社会に ⑥これからの学習に ⑦自分自身に
3. 教材・教具の開発や見せ方の工夫を行うこと
 - もので始まり、もので追究し、もので終わる授業の実施

さらに、研究を進める際（授業づくり）の具体的な視点を、次のように位置付ける。

<教育課程>

- ・育成する資質・能力を捉え、学習内容の系統性・発展性や科学的な探究の過程を明らかにした指導計画の作成

<観察、実験>

- ・課題に正対した考察をするために必要となる確かな事実が得られる教材・教具の工夫

<学習・評価>

- ・生徒が、自ら学習課題を設定することができる導入の指導
- ・結果を図やグラフ・表などに整理して考察することができる指導
- ・日常生活や実社会への適用を意図し、理科の有用性を実感できる終末の指導
- ・自分自身の学びを自覚するための評価の工夫

<環境教育>

- ・地域の人的・物的資源を活用するなどして、自然環境の保全に寄与する態度を育てる指導

岐阜県中学校理科研究部会	研究委員長	：藤井 和光（岐阜市立岐北中学校）
	領域長（物理）	：岩崎 聡（岐阜市立本荘中学校）
	領域長（化学）	：陶山 俊輔（瑞穂市立穂積北中学校）
	領域長（生物）	：常川 真味（岐阜市立長森中学校）
	領域長（地学）	：河合 宏徳（大垣市立上石津中学校）